

## 看護学講座 育成期看護学

## 1. 領域構成教職員・在職期間

教授	波崎 由美子	2004. 4～
講師	嶋 雅代	2013. 4～
助教	内江 希	2016. 4～
助教	谷口 光代	2022. 7～2023. 8
助教	高村 理恵子	2018. 4～2023. 3
助教	飯田 悠希子	2019. 5～2023. 3

## 2. 研究概要

## 研究概要

本領域は次世代の健康・養育を担う女性と子どもに焦点を当て、次世代を産み育てる女性のライフステージすべてに関わる健康支援、母子の健康問題に関する研究を主な内容としている。また「ウイメンズヘルス」と「母性看護学・助産学」「小児看護学」の教育の質の向上と評価にも力を注いだ。  
具体的には科学研究費補助金を基盤に、若年がん患者、AYA世代がん患者に対する妊孕性支援看護モデル構築、生殖補助医療を受療する高齢の女性のQOL工場に向けた関連探索研究、児への侵襲を最小限とする分娩助産法での母親と新生児の健康状態評価、妊産婦を取り巻くソーシャルサポーターへの支援の検討、医療的ケアの必要な子どもへの親における災害への備えに向けた支援についての検討について研究を実施している。

## キーワード

妊孕性支援、AYA世代がん患者、連携、協働、不妊症、生殖補助医療、妊娠期、体圧分散、寝心地、胎児娩出法、熟練助産師、分娩外傷予防、

## 業績年の進捗状況

波崎について、2022年度は、論文「わが国の若年乳がん患者の妊孕性意思決定に対するがん・生殖領域看護師の実践、態度と課題」が大阪医科薬科大学医学会雑誌に掲載された。また、AYA世代女性がん患者の中でも、わが国の生殖可能年齢20～30代が好発年齢である子宮頸部がん患者への妊孕性意思決定支援に関する国内外の文献レビューを実施した。「生後3～4か月児をもつ母親の子どもへのスキンケア行動の実態と影響要因」については8施設で調査を継続中である。

嶋について、①ART受療中の40代女性を対象に、質問紙調査およびインタビュー調査を継続中である。②非妊産女性15名による妊婦体験ジャケット着用・非着用時の臥床時の体圧分布図からデータ分析中である。

内江について、若手研究「児への侵襲を最小限とする分娩助産法での母親と新生児の健康状態評価」において、助産所助産師が行う自然な陣痛と胎児自身の回旋力を見守る分娩助産法と、施設助産師が行う教科書通りの方法での産婦と新生児の健康状態を比較した。結果として、助産所助産師が行う分娩助産法では、教科書通りの方法に比較して、母親の会陰裂傷は少なく、児の子宮外生活適応はよりスムーズであったと言える。本研究の成果により、助産学テキストでの分娩助産法の記載を見直し、児の侵襲を最小限とする助産法について検討するための基礎データとなり、今後の助産師教育に役立てる一助となる。これらの結果について、日本助産学会誌に投稿予定である。また、テルモ看護研究助成金を得て、「母児のwell-beingを目指した分娩助産技術における評価指標の検討」に関する研究を行った。分娩助産時における熟練者と初学者の視線を比較した結果、熟練者では一定比率で産婦の顔を見るイベントが観測されたが、初学者では認められなかった。分析対象者が各2名ずつと少なかったため、研究手法や分析方法についてさらに検討し、対象者を増やしていく必要がある。

谷口について、夫婦で育児に必要な知識を持ち、妊娠期から産後と心身ともに夫婦や家族の状況が変化していく中で互いの感情を伝え傾聴できる相互のコミュニケーションを獲得できること、また、夫婦がともに親としての役割を主体的に考え行動し、良好な夫婦関係を構築でき、夫婦ペアレンティングを獲得して夫婦エンパワメントを高める効果が期待できることが検証された。この結果について、京都橋大学大学院看護学研究科博士学位論文として提出し、内容の一部を2023年日本母性衛生学会学術集会で発表予定である。

## 特色等

母性看護学・助産学および小児看護学領域の教育・研究は、母親、子ども、女性、家族の視点で、それらを取り巻く人々のより良い健康、QOLを目指すことを目的に、国内だけでなく国際にも研究成果を発表してきた。これらは本学の理念と一致するものである。

## 本学の理念との関係

波崎は、基盤研究（C）「日本のAYA世代女性ががん患者の妊孕性意思決定パートナーシップ看護支援モデルの創生」に関する研究を実施している。がん治療の進歩と生殖医療技術の進歩と普及により、生殖可能年齢にある小児・AYA世代がん患者のがん治療後の妊孕性保持に対する支援が必要とされている。福井県の地域医療の特性に応じたがん領域と生殖領域の医師や看護師の連携と協働が不可欠であり、その支援体制の構築を目指すものである。本研究は、地域社会に貢献する実践的な研究に当たり、本研究成果により、AYA世代女性ががん患者の性的健康とクオリティオブライフへの貢献が期待できる。また、分担研究者として「生後3～4か月児をもつ母親の子どもへのスキンケア行動の実態と影響要因」について、8施設で調査を実施中である。近年、乳幼児期の湿疹が幼児期の食物アレルギーや気管支ぜんそくの発症リスクを高めることが明らかとなっている。生後3～4か月までの乳児は、皮膚構造の未熟さに加えて生理的な皮脂分泌量の変化が激しいことから一般的に湿疹が発生しやすい。そのため、バリア機能の補正を目的とした洗浄と保湿によるスキンケアが着目されているが、生後3～4か月児の母親が子どもにどのようなスキンケア行動を行っているのかの実態は明らかでない。乳児期の発達段階に合わせた、湿疹予防のためのスキンケア教育を検討し、本研究成果により、慢性的な経過をめぐり、人生の長きにわたり生活に影響を及ぼすアレルギー疾患発症予防の一助となることが期待できる。

嶋は、①若手研究「後年女性に対する生殖補助医療(Assisted Reproductive Technology: 以下ART) 最終後のQOL向上に向けた看護支援モデルの構築」について、研究期間を延長して進めている。研究目的は、生殖補助医療(Assisted Reproductive Technology: 以下ART) では、調整卵巣刺激のため高濃度のホルモン環境下におかれるが、これによる心身への影響について明らかになっていない。そのため、卵巣機能の低下が始まる年代であるART受療中の40歳以上の女性を対象に、メンタルヘルスと不妊に関するQOL、および採卵時の調整卵巣刺激による女性ホルモン血中濃度の落着に伴う更年期様症状それぞれの実態、および これらの関連について明らかにすることで、②妊娠に伴う身体的変化が最も大きくなる妊娠後期の妊婦において、臥床時の体圧分散、臥床体位、ベッドの頭部挙上角度と寝心地の関連について明らかにし、「妊婦にとつての寝心地のよさ」について検討すること目的とした研究を進めている妊娠の経過に伴って体重や姿勢が変化する「妊婦の臥床時の寝心地」についての示唆が得られることにより、臥床時に適度に体圧が分散し、容易に寝返り動作ができることで良質な睡眠を確保し、妊娠期のQOLを向上させ、健やかな周産期を過ごすことにつながるという意義がある。

内江は、若手研究「児への侵襲を最小限とする分娩助産法での母親と新生児の健康状態評価」において、助産所助産師が行う自然な陣痛と胎児自身の回旋力を見守る分娩助産法と、施設助産師が行う教科書通りの方法での産婦と新生児の健康状態を比較した。結果として、助産所助産師が行う分娩助産法では、教科書通りの方法に比較して、母親の会陰裂傷は少なく、児の子宮外生活適応はよりスムーズであったと言える。本研究の成果により、助産学テキストでの分娩助産法の記載を見直し、児の侵襲を最小限とする助産法について検討するための基礎データとなり、今後の助産師教育に役立てる一助となる。

谷口は、「夫婦のエンパワメントを高める夫婦ペアレンティング教育プログラムの効果検証」について、博士課程での研究を継続している。本研究で教育プログラム「夫婦ペアレンティング教育プログラム」を開発し、このプログラムを受講した夫婦は、夫婦間の適切なコミュニケーションを通じた夫婦ペアレンティングを基盤として、親になるために共に支えあい共同して育児をする体験により、夫婦がエンパワメントできることが期待できる。

## 3. 研究実績

区分	総数		インパクトファクター（うち原著のみ）	
	2016～2021年分	2022年分	2016～2021年分	2022年分
和文原著論文	5	3	—	—
英文論文	ファーストオーサー	0	0(0)	6.055(6.055)
	ジュニア インテグレーション	0	0(0)	0(0)
	その他	0	0(0)	0(0)
	合計	0	1	0(0)

業績一覧

(A) 著書・論文等

(1) 英文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

c. 編集・編集・監修

(2) 英文：論文等

a. 原著論文（審査有）

22113001

Naoko Umeda, Takaharu Hirai, Takayo Ohto-Nakanishi, Kenji J. Tsuchiya, Hideo Matsuzaki: Linoleic acid and linoleate diols in neonatal cord blood influence birth weight, *Frontiers in Endocrinology*, 13, 86650, 20220825, DOI: 10.3389/fendo.2022.986650, #6.055

b. 原著論文（審査無）

c. 原著論文（総説）

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

(3) 和文：著書等

a. 著書

b. 著書（分担執筆）

22113002

波崎由美子：付章 周産期にある母子の看護の事例：渡邊浩子・板倉敦夫・松崎政代：新体系看護学全書母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護，第7版，株式会社メデカルフレンド社，258-280，20221130，978-4-8392-3404-1

c. 編集・編集・監修

(4) 和文：論文等

a. 原著論文（審査有）

22113003

北川加奈子、波崎由美子：平均赤血球容積（mean corpuscular volume:MCV）を指標にした妊産婦の手付う坊性貧血の実態と産褥1ヶ月の鉄欠乏性貧血の影響要因，*日本母性衛生学会誌*，63(4)，736-745，202301

22113004

波崎由美子、佐々木綾子：若年乳がん患者の妊孕性意思決定に対するがん・生殖領域看護師の実践、態度と課題，*大阪医科薬科大学医学会雑誌*，81，1-11，202209

22113005

内江希、三反崎宏美、上澤悦子：日本の助産所熟練助産師による胎児娩出手技と考え方，*日本助産学会誌*，36(1)，105-114，202206，DOI: 10.3418/jjam.JJAM-2020-2022

b. 原著論文（審査無）

c. 総説

d. その他研究等実績（報告書を含む）

e. 国際会議論文

(B) 学会発表等

(1) 国際学会

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

(2) 国内学会（全国レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

22113006

北川 加奈子，波崎 由美子：MCVを指標にした妊産婦の鉄欠乏性貧血の実態と産褥1か月の鉄欠乏性貧血の影響要因，第63回日本母性衛生学会学術集会，20220909

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

22113007

四谷淳子、嶋雅代、内江希、高村理絵子、飯田悠希子、岡本智子、青木未来：妊娠後期の妊婦における体圧分散マットレス使用基準の検討，第24回日本褥瘡学会学術集会，20220828

(3) 国内学会（地方レベル）

a. 招待・特別講演等

b. シンポジスト・パネリスト等

c. 一般講演（口演）

d. 一般講演（ポスター）

e. 一般講演

f. その他

- (4) その他の研究会・集会
- a. 招待・特別講演等
  - b. シンポジスト・パネリスト等
  - c. 一般講演（口演）
  - d. 一般講演（ポスター）
  - e. 一般講演
  - f. その他

(C) 特許等

区分	内容（発明の名称）	発明者又は考案者

(D) その他業績

4. グラント取得

(A) 科研費・研究助成金等

区分	プロジェクト名	研究課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
区分	研究種目	課題名	代表者名	分担者名	研究期間	金額（配分額）
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	高年女性に対するART終了後のQOL向上に向けた看護支援モデルの開発	嶋 雅代		20190401-20230331	¥0
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	離島で出産する夫婦のエンパワーメントを高める健康教育プログラムの開発	谷口 光代	上澤 悦子	20220401-20250331	¥1,950,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	熟練助産師の技を伝える新たな分娩介助技術習得のためのVR教材の開発	内江 希	三反崎 宏美, 上澤 悦子, 四谷 淳子, 嶋 雅代, 波崎 由美子	20220401-20260331	¥2,340,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	生殖補助医療による女性ホルモン変動差に伴う健康状態とヘルスリテラシーの関連	嶋 雅代		20220401-20260331	¥1,170,000
文部科学省科学研究費補助金	若手研究	医療的ケアの必要な子どもの親が「主体的に災害へ備える力」を育むプログラム開発	高村 理絵子		20200401-20230331	¥650,000
文部科学省科学研究費補助金	基盤研究(C)	日本のAYA世代女性が妊患者の妊孕性意思決定パートナーシップ看護支援モデルの創成	波崎 由美子	内江 希, 上澤 悦子	20190401-20230331	¥0

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額

区分	機関名	課題名	研究者名	研究期間	契約金額

(B) 奨学寄附金

受入件数	0
受入金額	¥0

5. その他の研究関連活動

(A) 学会開催等

区分	主催・共催の別	学会名	開催日	開催地

(B) 学会の実績

学会の名称	役職	氏名
日本ウーマンズヘルス学会	一般会員	波崎 由美子
日本母性看護学会	一般会員	波崎 由美子
日本看護科学学会	一般会員	波崎 由美子
日本助産師会	一般会員	波崎 由美子
日本不妊カウンセリング学会	一般会員	嶋 雅代
日本母性看護学会	一般会員	嶋 雅代
日本母性衛生学会	一般会員	嶋 雅代
日本生殖看護学会	一般会員	嶋 雅代
福井県母性衛生学会	一般会員	嶋 雅代
日本災害看護学会	一般会員	嶋 雅代
日本褥瘡学会	一般会員	嶋 雅代
日本助産学会	一般会員	内江 希
福井県母性衛生学会	一般会員	内江 希
日本母性衛生学会	一般会員	内江 希
日本生殖看護学会	一般会員	内江 希
日本助産学会	一般会員	中沢 愛実
日本看護技術学会	一般会員	高村 理絵子
日本小児看護学会	一般会員	高村 理絵子
日本災害看護学会	一般会員	高村 理絵子
福井県小児保健協会	一般会員	高村 理絵子
福井県小児保健協会	一般会員	飯田 悠希子
日本小児臨床アレルギー学会	一般会員	飯田 悠希子
日本脳科学学会	一般会員	梅田 尚子
日本DOHaD学会	一般会員	梅田 尚子
日本褥瘡学会	一般会員	畑 菜都希
日本創傷治療学会	一般会員	畑 菜都希
日本創傷・オストミー・失禁管理学会	一般会員	畑 菜都希
日本看護研究学会	一般会員	梅田 尚子
日本がん看護学会	一般会員	梅田 尚子
日本看護診断学会	一般会員	梅田 尚子
日本看護科学学会	一般会員	梅田 尚子
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会	一般会員	梅田 尚子

業績一覧

日本看護学教育学会	一般会員	梅田 尚子
日本エンドオブライフケア学会	一般会員	梅田 尚子

(C) 座長

国内学会 (全国レベル)	学会名	氏名
-----------------	-----	----

(D) 学術雑誌等の編集

学術雑誌等の名称	査読・編集	委員長(主査)・委員の別	氏名	査読編数
福井大学医学部研究雑誌	査読	委員	嶋 雅代	1
日本生殖看護学会	査読	委員	嶋 雅代	0

(E) その他